

今週の為替相場見通し(2023年10月16日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		148.17 ~ 149.84	149.56	148.00 ~ 151.00
ユーロ	(ドル)		1.0496 ~ 1.0640	1.0509	1.0400 ~ 1.0600
(1ユーロ=)	(円)		156.60 ~ 158.60	157.17	156.00 ~ 158.00
英ポンド	(ドル)		1.2123 ~ 1.2337	1.2139	1.1900 ~ 1.2400
(1英ポンド=)	(円)	*	181.26 ~ 183.82	181.63	179.00 ~ 184.00
豪ドル	(ドル)		0.6287 ~ 0.6445	0.6297	0.6200 ~ 0.6400
(1豪ドル=)	(円)	*	94.05 ~ 95.83	94.19	93.80 ~ 95.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1)今週の予想レンジ: 148.00 ~ 151.00 円

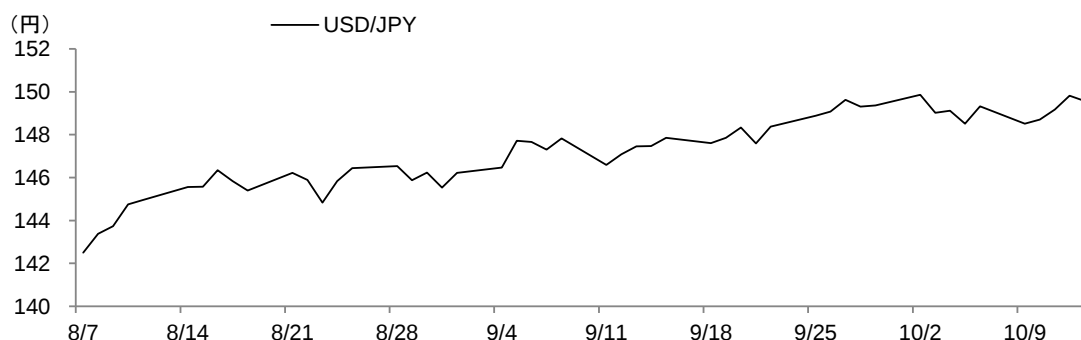
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、週後半にかけてドル買いが強まり、150円を目指す展開となった。週初9日、149.14円でオープンしたドル/円は、本邦休日で材料難の中、149円台前半でレンジ推移。海外時間は、ローガンダラス連銀総裁やジェファソンFRB副議長による追加利上げを不要と示唆するハト派な発言を受け、148円台半ばに下落した。10日、ドル/円は一時週安値となる148.17円に続落も、日本株の堅調推移を横目に148円台後半に反発。海外時間は、149円台に続伸も、ボスティックアトランタ連銀総裁のハト派な発言を背景に、米金利低下につれて148円台後半に値を戻した。11日、ドル/円は米金利が下げ止まる中、149円付近に上昇。海外時間は、レバノンからイスラエルに向けてミサイル発射との報道を受けリスクオフから円が買われる場面もあったが、米9月生産者物価指数(PPI)の強い結果を背景に、米金利が上昇に転じる流れに合わせ149円台前半に反発した。12日、ドル/円は材料に欠ける中、149円台前半でレンジ推移。海外時間は、米9月消費者物価指数(CPI)の強い結果や、米30年債入札の軟調な結果を受けた米金利上昇を背景に149.83円に上昇した。週末13日、ドル/円は一時週高値となる149.84円まで買われるも、149円台後半でもみ合い推移。海外時間は、発表された米10月ミシガン大学消費者信頼感指数が予想を下回り、ややドル売りとなるも、中東情勢の緊迫化を意識したドル買いが観測され、総じてドルは底堅い展開となり、結局149.56円で越週した。

今週のドル/円は底堅い展開となるも、引き続き地政学リスクに留意。先週は、FRBによる追加利上げ観測が後退した一方、発表されたFOMC議事要旨によると利下げまでは程遠いことが示唆された。また、発表された米PPI・CPIともに米インフレの高止まりを示す内容となったこともドルを下支えの材料となった。今週は19日にパウエルFRB議長の講演が予定されており、発言内容が注目されている。タカ派な内容となった場合、一段のドル買いが想定される一方、150円近辺では引き続き日本当局による円安けん制への動きが警戒されており、また、中東情勢を巡り、安全資産の米債買いによる米金利の低下や、リスクオフの動きによるドル買いが交錯しており、今週のドル/円は引き続き高値圏でのみみ合いの展開となるか。重要指標の発表は17日(火)に米9月小売売上高、鉱工業生産、18日(水)に米9月建設許可/住宅着工件数、米ペーパージュブック、19日(木)に米9月中古住宅販売件数などの発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/9~10/13)の値動き: 安値 148.17 円 高値 149.84 円 終値 149.56 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

金融市場部 為替営業第一チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 1.0400 ~ 1.0600 156.00 ~ 158.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは、1.06台に乗せるも、週後半には米金利上昇を受け反落した。週初9日、1.0566でオープンしたユーロ/ドルは、中東の政情不安を受けた欧州株下落を横目に弱含むも、FRB高官のハト派な発言を受けほぼ往って来いとなった。10日、ユーロ/ドルは、リスクオフの後退を受けた欧州株と独金利の上昇に合わせ、1.06台に乗せた。11日、ユーロ/ドルは、米9月PPIの公表前後には上下を見せるも、一日を通しては1.06ちょうどを挟み方向感なく推移した。12日、ユーロ/ドルは独金利上昇につれ一時週高値となる1.0640に上昇も、米9月CPIや米国債入札を受けた米金利上昇が重しとなり、1.05台前半に反落した。週末13日のユーロ/ドルは、1.05台半ば付近での推移が継続した後、欧州時間に入るとリスクオフから上値重く推移した後、NY時間に一時ドル買いが強まると1.05を割り込む場面も見られた。終盤は1.05台前半まで戻してクローズした。

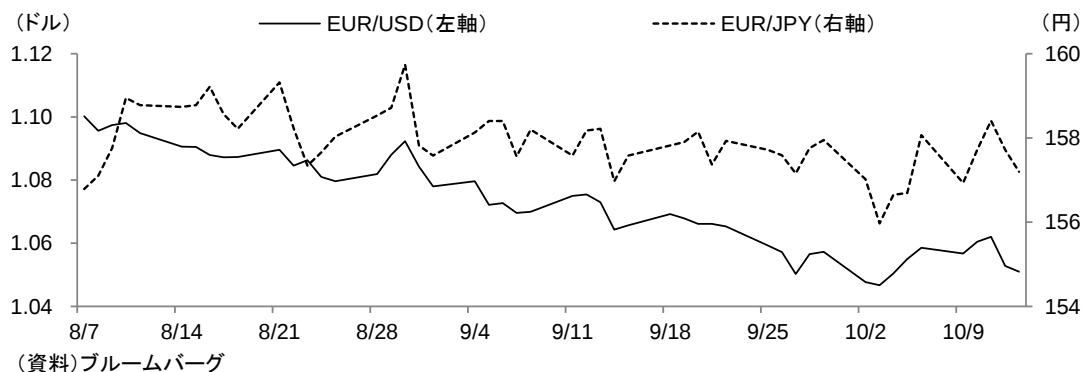
今週もユーロは対ドルで弱含む展開を予想する。欧州の利上げ期待鈍化による欧米の金利差を背景にユーロは上値重い推移を継続するだろう。今週は18日(水)にユーロ圏9月消費者物価指数確報値の発表が予定されており、速報値と同じ値となる予想だ。9月末に発表された速報値は前月比を大きく下回る数字となっており、インフレの鈍化が伺える内容となっている。これによりユーロ圏の利上げ期待が鈍化しユーロの上値が重くなっており、今回の確報値も速報値と同じ数字となればこの流れが継続するだろう。また、先週末に発表された米インフレ指標が予想値を上回ったことで、米利上げ期待が持ち直していることもユーロ/ドルの下落を後押しするだろう。また、中東情勢の緊迫化によりリスクオフのユーロ売りドル買いの流れも見られており、地政学の観点からもユーロは上値の重い推移が継続するだろう。その他、今週は、17日(火)にユーロ圏並びに独10月ZEW景況感調査が予定されている。ドイツの予想は前回比改善することが予想されているが、マイナス圏での推移が継続する予想のため、ユーロ売りの流れを変えるほどの材料にはならないと考えている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/9~10/13)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0496 高値 1.0640 終値 1.0509

(対円) 安値 156.60 高値 158.60 終値 157.17



3. 英ポンド

欧州資金部 中島 将行

(1) 今週の予想レンジ: 1.1900 ~ 1.2400 179.00 ~ 184.00 円

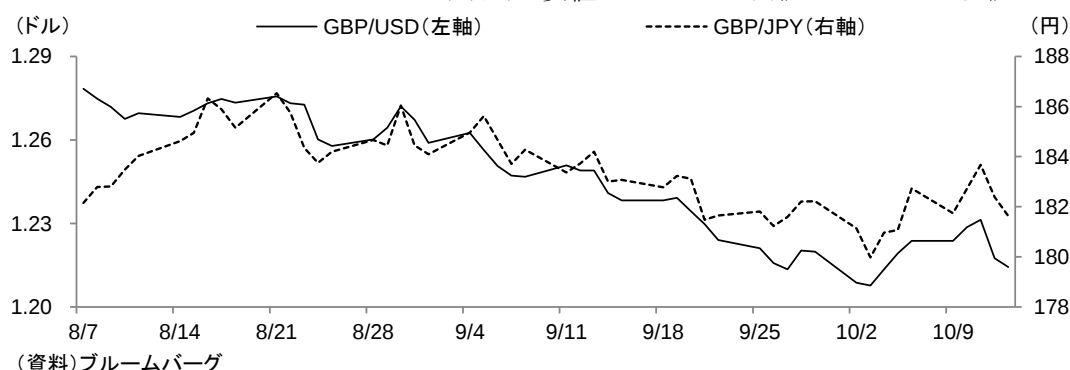
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間のポンド相場は週前半の9日から11日にかけて対ドルで反発したが、週後半、12日から13日にかけて下落し、1週間を通じて見れば対ドル1.22から1.21へと約0.9%の下落となった。ポンドの値動きは基本的には、米長期金利とグローバルなドル高の裏返しという側面が大きい。10月7日に発生したパレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスによるイスラエル攻撃という地政学リスクイベントを受けて、9日のロンドン時間の早朝に、ドルはポンドを含む欧州通貨に対して上昇したものの、その後は一転してドル売りが広がった。10日のニューヨーク市場再開と共に鮮明となった米長期金利の低下が影響したものと見られる。中東情勢の緊迫化に伴う安全資産への逃避需要のほか、ダラス連銀のローガン総裁や、ジェファースンFRB副議長らの発言を受けて、FRBが利上げ見送りに傾いているとの見方が広まった。もっとも、12日から13日にかけては米9月CPIで根強いサービスインフレが確認されたことや、米10月ミシガン大学消費者調査における1年後のインフレ見通しが9月の年率+3.2%から10月には同+3.8%へと予想外に急加速したこともあり、米金利及びドルには上昇圧力がかかっている。イスラエルによるガザ地区への地上侵攻の可能性が意識される形で、リスク回避のドル高、という側面もあっただろう。英国の経済統計では、12日に英9月RICS住宅価格指数、13日に8月分のGDP、鉱業、製造業生産が発表された。RICS住宅価格指数は8月の▲68%から9月には▲69%へと予想外の低下となったほか、8月GDPはヘッドラインの数値こそ前月比+0.2%と市場予想通り並みとなったものの、7月分は同▲0.5%から同▲0.6%へと下方修正された。一連の統計は、総じて、イングランド銀行(BOE)の利上げ局面の終了という見方をサポートするものであったものと言えよう。

今週1週間のポンド相場は、上値の重い展開を予想する。中東情勢の緊迫化や米国金融市場の動向のほか、英国国内の主要経済指標を睨んだ展開となる。中東情勢については、これまでのところ市場への影響は意外なほど小さいが、リスク回避のドル買いや、エネルギー価格高騰に伴う英国を含む欧州経済の悪化リスクを考慮すれば、ポンドにとって潜在的な下押し要因であるだろう。特に、欧州天然ガス価格(オランダTTF)が週間で約40%もの大幅上昇になったことは意識する必要がある。英国の経済指標では、17日(火)に発表される労働市場関連統計のほか、18日(水)に発表される9月CPIが注目される。8月CPIはサービスインフレを含む幅広い品目でインフレ減速の兆候が強まり、9月21日のBOEのサプライズの金利据え置きにつながった。GDPをはじめ実体経済の指標を見る限りは、景気鈍化、賃金の伸び減速、インフレ減速という流れが強まりそうに思われる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(10/9~10/13)の値動き: (対ドル) 安値 1.2123 高値 1.2337 終値 1.2139
(対円) 安値 181.26 高値 183.82 終値 181.63



4. 豪ドル

金融市場部 為替営業第二チーム 上遠野 暁洋

(1) 今週の予想レンジ: 0.6200 ~ 0.6400 93.80 ~ 95.50 円

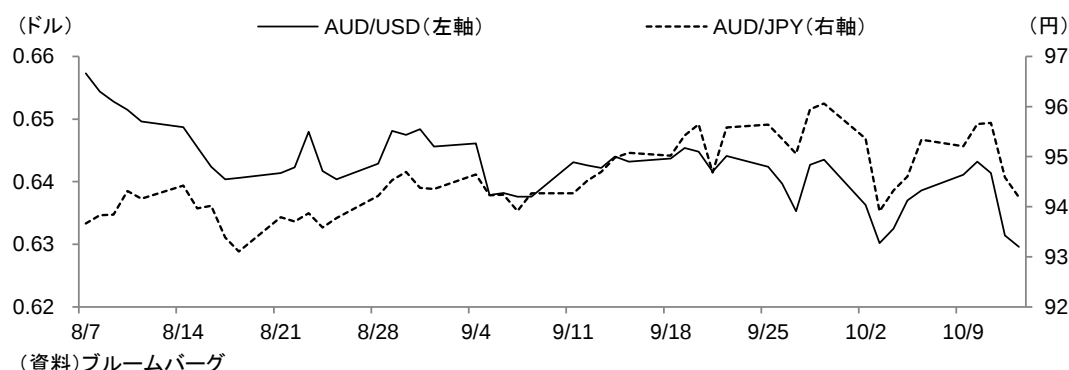
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は週後半に下落。米9月CPI発表後のドル高の動きに対ドルで反落する展開。週初9日、豪ドルは日本が祝日休場で薄商いとなり、また特段のイベントもなくアジア・ロンドン時間は0.6343-0.6381のナローレンジで推移。NY時間はジェファーソンFRB副議長を始めとする複数の当局者が「米債利回り上昇が景気を一段と抑制する可能性」に言及し、追加利上げの必要性が低下するとの認識を示した事で米追加利上げ観測が後退し、株が続伸する動きにフォローする形で豪ドルは0.6415まで上伸。10日、豪ドルは0.6420近辺で取引開始後、0.64台前半を中心にもみ合い。複数のFED高官によるハト派発言を受け米金利が大幅低下する中、ドルが下落。一方で、週末に勃発したハマスによるイスラエル攻撃を背景にリスク回避の流れから豪ドルの頭が押さえられ、豪ドルは終日方向感ない値動きとなった。尚、この日発表された豪10月消費者信頼感の前月比+2.9%上昇。豪9月企業景況感の前月から2ポイント低下の+11となったが、依然として底堅い結果だった。11日、豪ドルは0.6430近辺で取引開始後、前日からの米ドル売りの流れを引き継ぎ、小高く推移。しかし、米9月PPIが予想を上回る結果となると、ドルに買い戻しの動きが入り、豪ドルは反落。もっとも、FOMC議事要旨では、「リスクがより均衡のとれた状態になった」との見解を示し、これまでの利上げに重点を置く姿勢からの転換を示唆する内容となった。これを受けて米株は上昇、米ドル安の反応となり、豪ドルは上昇に転じ0.6410近辺まで上昇して引けた。12日、豪ドルは0.6410近辺で取引開始後、アジア時間内は狭い範囲でレンジ推移。注目された米9月CPIは前月比0.4%（予想0.3%）、前年比3.7%（予想3.6%）と予想を上回り、追加利上げ観測が強まる結果に。米金利が大きく上昇し、ドルが買いで反応すると、豪ドルは0.63台前半まで下落した。13日、豪ドルは0.6315近辺で取引開始後、前日の米9月CPI上振れを受けたドル買いの流れが継続し、上値重い展開に。中国9月CPI、PPIが下振れたことや、中東情勢を受けたリスクオフの動きも豪ドルの重し。NY時間に発表された米10月ミシガン大学期待インフレ率が1年先及び5-10年先どちらも予想を上回る伸びを記録。ドルが更に買い進まれる中、豪ドルは0.6287の週安値を更新。安値圏のまま0.6297で越週。

今週の豪ドル相場は上昇の重い展開を予想。先週の米国各種インフレ指標の軒並み予想比上振れ内容を受けてFRBのタカ派スタンス長期化が意識される局面。ここ最近、Fed高官より追加利上げに対する慎重な発言が相次ぎ織り込みが進んでいなかっただけに、今週末からのブラックアウト期間入りを前に上方調整がなされ易いか。今週は17日（火）RBA議事要旨（10/3開催分）の発表を予定し、4会合連続利上げ見送りとなった会合内容に注目。ブロック新総裁のもと初めて行われた同会合でのインフレや経済先行き認識、追加利上げの可能性に対する言及が注目される。その他、18日（水）豪9月ウエストバック景気先行指数、中国3QGDP、19日（木）豪7～9月期NAB企業信頼感指数、豪9月雇用統計等の発表を予定。

(3) 先週までの相場の推移

先週（10/9～10/13）の値動き:



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。